

学術功労

川崎医科大付属病院長

そのお ひろし  
**園尾 博司氏 (66)**

岡山市中区兼基



30歳から64歳の女性で、がんによる死因トップの乳がん。治療や研究、検診受診率向上に約40年、一筋に取り組んできた。母を亡くしてぼつんと立つ幼子を目にし、涙ながらに帰宅したことが幾度もある。「女性は家庭を明るくする光。消したくない」山口大卒業後、出身の徳島県で勤務し、1984年に川崎医科大付属病院へ。

手術症例は1100を超え、全国に先駆けた乳房温存術の導入や、リンパ節の切除を最小限にする検査法「センチネルリンパ節生検」、シリコンによる乳房再建術の採用など、患者の生活の質向上に寄与。2006年から4年間、日本乳癌学会の理事長も務め、治療水準を引き上げた。治療の前提はがんの発見

だが、岡山県内の検診受診率は約2割にとどまる。「手遅れの人を見るたび、悔しい思いをした」。市民公開講座や、検診精度アップへ医師対象の講習会も手掛けた。昨年4月に病院長就任後も、県の検診推進組織で乳がん部会長を務める。貴く思いはただ一つ。「生涯をかけ、乳がん撲滅に貢献する」

(水嶋佑香)

乳がんの撲滅一筋に

第72回 山陽新聞賞

山陽新聞社は毎年、文化、社会、教育、学術、産業、国際の各分野で、地域社会に貢献した個人、団体に「山陽新聞賞」を贈り、功績をたたえています。

第72回は山陽新聞賞に個人10人、山陽新聞奨励賞に



1団体が決まりました。受賞者には賞状とメダル(日本芸術院会員蛭田二郎氏制作)＝写真、賞金を贈ります。贈呈式は9日に岡山市内で開きます。(受賞者の業績は20、21面に掲載。敬称略)

山陽新聞賞

文化

白井 洋輔 (岡山市)

川野 正毅 (新見市)

福武 總一郎  
(ニュージーランド)

社会

星野 仙一 (名古屋市)

宮脇 昭 (横浜市)

地域への貢献たたえる

教育

大橋 博 (芦屋市)

学術

園尾 博司 (岡山市)

新納 泉 (岡山市)

馬 建鋒 (岡山市)

産業

武田 修一 (岡山市)

山陽新聞奨励賞

社会

竹田喜之助顕彰会  
(瀬戸内市)

山陽新聞社